

<センター長のコラム>

京都大学保健管理センター長 川村 孝

結核は過去の病気とされていますが、なかなかしぶとく生き残っています。本学でも毎年のように学生の誰かが罹患し、本人はもとより、ゼミやサークルの友人らが2年後まで定期的に接触者検診を受けるとともに、一部は予防投薬もされています。子供の頃に受けたBCGもそろそろ効果が落ちてきていますし、栄養が偏ったり、不規則な生活をしたりしてかかりやすくなっているようです。今一度、結核のことを意識してほしいところです。

<健康トピックス！>

京都大学保健管理センター 内科医師 安藤 昌彦

結核について知っていますか？

結核は、結核菌という病原体による感染症です。感染力を有する結核患者から咳などにより飛散した「しぶき」(飛沫)には生きた結核菌が存在し、それを他の人が吸入することにより新たな感染が起こります。適切な治療が開始された患者は、まだ結核が完全に治っていない状態でも感染力は急速に小さくなっていきます。

1. 結核菌に感染した人のうち、どれくらいが発病する？

上記のようにして結核菌に感染した人が、みな直ちに発病するわけではありません。

まず、エイズ(AIDS)患者や高齢者などを除けば、問題になるのはこれまでに結核菌の感染を受けたことがない未感染の人であり、以前に結核に感染したことがある人は殆ど発病の心配はないとされています。

わが国では小児期にBCGワクチンという結核の「予防接種」を行っており、多くの人が結核に対する抵抗力(免疫)をもっています。このBCG接種を受けたことがない人が結核菌に感染した場合、最終的に感染力のある結核を発病する可能性は約10%とされています。BCG接種を受けた人では発病の可能性はさらに低くなりますが、ゼロではありません。

BCG未接種の人が結核菌の感染を受けると、1-2か月でツベルクリン反応が陽性となります。BCG接種を受けて免疫を有する人では未感染でも陽性ですが、反応が強くなる(強陽性)ことがよくあります。

発病する場合には感染後3か月頃から始めて半年-1年間頃に発症することが最も多く、発病する人の約半数は感染後2年以内に発症すると言われています。

2. 発病すると、どんな症状が？

結核が発病する場合はいろいろな形をとりますが、その約85%が肺結核です。

肺結核にかかると、最初は咳・痰・発熱が多くみられます。これらの症状はカゼと区別がつかませんが、重要な点はそれが2週間以上にわたって続くことです。初めは単にカゼをひいたと思っていても症状が2週間以上長引く場合は、「もしかして結核?」と思い浮かべて医療機関を受診するようにして下さい。せっかく医療機関を受診しても「カゼですね。」と言われて貴重な早期診断の機会を逃してしまう場合もありますので、「症状が長引いて結核を心配しており、胸部レントゲン写真を撮って欲しい」とはっきり伝えて下さい。

3. 健康診断の役割は？

現在わが国では1年間に10万人中22-23人の結核患者が発生し、一ケタ台が一般的な先進国の中では最も結核の多い国です。かつてのような若者への結核まん延はありませんが、その結果20-30歳代では結核に感染したことの無い未感染者が97%以上となり、一たび患者が発生した場合に集団感染が起こる可能性があります。感染力の高い結核患者が学内で発生した場合は、保健所が主体となって行う定期外健康診断によって比較的接触の多かった人の健康状態のチェックが行われ、保健管理センターも適宜協力しています。

また自覚症状が乏しく(症状の自覚が乏しく?)、学生・職員の定期健康診断で胸部レントゲン写真を撮影して初めて結核と診断されるケースも毎年数人ずつみられます。教育関係者、医療従事者は結核感染リスクの高い集団であり、毎年胸部レントゲン検査を受けるよう法律で定められています。

<生活アドバイスコーナー>

結核の予防方法をご存知ですか？

1. 結核について正しく知ることが予防への第一歩です(『健康トピックス!』を参考にして下さい)

2. 乳児期のBCG接種で結核の免疫力をつけましょう

抵抗力のない赤ちゃんは、感染すると重症の結核を発病しやすく、生命にかかわることがあります。これを予防するのがBCGです。BCGとは、結核の免疫をつけるための予防接種で、効果は約10年以上続くと言われています。



3. 免疫力(抵抗力)をつけましょう

結核に感染しても、必ず発病するわけではありません。通常は免疫機能が働いて、結核菌の増殖を抑えます。ただ、免疫力だけでは結核菌を殺すことはできないので、免疫力が弱まると発病するというケースが増えています。

免疫力をつける方法

- ・ 適度に運動する
- ・ 睡眠時間を十分にとる
- ・ 好き嫌いせずバランスのとれた食事をする



4. 集団感染を防ぎましょう

現在の日本では、大部分の人が未感染のため、結核菌を吸い込めば感染する可能性が高く、したがって集団感染を起こす可能性が高くなってきました。自分自身が感染源にならないよう注意しましょう。

感染源にならないためには

- ・ 結核はカゼによく似ていますから、咳が出るときはまずマスクをつけましょう
- ・ 咳が2週間以上続いたら医療機関を受診しましょう
- ・ 健康診断を受けましょう



【保健管理センター・保健診療所からのお知らせ】

詳細は保健管理センターホームページをご覧ください。 <http://www.kyoto-u.ac.jp/health/kuhc-home.htm>

平成19年度 学生定期健康診断日程が決まりました。以下の通りです。

本部地区 4月3-5日 学部新入生のみ 4月9-24日(土日除く) 学部2回生以上・大学院生・研究生等

宇治地区 5月15日 桂地区 5月17-18日

学生の皆様、必ず定期健康診断を受けましょう。